

彦根市総合教育会議 会議録要旨

令和３年度第４回彦根市総合教育会議	
日 時	令和３年１１月２６日（金） 午後２時００分～午後４時００分
場 所	彦根市役所５階 ５-１, ５-２ 会議室
出 席	彦根市長 和田 裕行 教育長 西嶋 良年 教育長職務代理者 本田 啓子 委 員 小松 照明 委 員 永濱 隆 委 員 田附 孝子
欠 席	なし
議事次第	
１ 議題	
(１) 教育大綱の策定について	

○企画課長

大変お待たせいたしました。

本日は、お忙しい中、ご出席をいただきまして誠にありがとうございます。

ただいまから、令和３年度第４回彦根市総合教育会議を開催いたします。

本日の進行を務めさせていただきます企画課長の馬場です。どうぞよろしくお願いします。

総合教育会議は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」により設置しているもので、本日の総合教育会議は公開により開催いたします。

つづきまして、本日お配りしています資料につきまして、確認をお願いします。

まず次第が１枚、資料１として「彦根市教育大綱（案）」ホッチキス止めのもの、資料２から資料４までが「彦根市教育大綱表紙（案）」になります。不足等ございましたら事務局までお願いします。

本日は、事務局から教育大綱（案）の内容に沿って説明をさせていただき、意見等をお聞かせ願えればと思いますので、よろしくお願いいたします。

それでは、事務局より修正案の説明をいたします。

○事務局

はい、それでは資料１、彦根市教育大綱（案）について説明させていただきます。

資料１をご覧ください。

全体を通して、この彦根市教育大綱（案）につきましては、第2回の総合教育会議にて修正の意見等無かったものについては、黒字で記載し、第2回の会議を経て修正したものについて朱字での見え消し表記をしております。

まず、表紙の部分については表紙が寂しいとのご意見もいただきましたので、事務局として4案を作成しております。まず資料1の表紙については、彦根市の佐和山の上空から彦根市全体を撮るような形での写真を背景に使わせていただきまして、今回の話し合いでICT関係のことが出ておりましたのでその写真や、地域の関わりも議題等よく出ておりましたので、地域の方と芋ほりをしている写真を掲載しております。

資料2をご覧ください。

こちらについては、写真等を使うことなく、シャドーイラストを用い、彦根城を中央に配置し、その周りに親子のイラストや子どもたちが遊んだり自転車に乗ったりサッカーをしているイラストを用いて作成しております。

続きまして、資料3をご覧ください。

後程内容の方で出てきますが、教育大綱の基本方針（案）の部分で、「心を磨き、可能性を引き出す教育」というフレーズから、表紙で目を引くようにということで作成させていただきました。「心を磨く教育」というワードを真ん中に入れていただいております、彦根のカラーとして朱色を用いて「心」の文字を示したものとなっております。

続きまして、資料4をご覧ください。

案4については、彦根城を背景に、青空が広がる写真を用いて作成しております。

事務局として一応この4案を作成しておりますが、相応しい、相応しくない等の皆様の御意見を頂ければと思います。

それでは資料1に戻らしてもらいます。

3 ページ目の「はじめに」につきましては教育に対する市長の思いを記載しております。大きく分けまして、基本方針と基本目標について市長の思いを中段に記載し、今年度の総合教育会議でも幾度となく話題となりました、「心を磨く教育」を記載するとともに、ICTの関係となります情報通信技術およびコミュニティ・スクールについても掲載しております。

ここに関してコミュニティ・スクールについてですけれども、後程出てきます基本目標のところにも、コミュニティ・スクールの関係を述べていますが、その表記としては一応地域とともにある学校というような表記にしているところから、こちらの方も表現を合わすかどうかを本日の会議等でご意見いただきまして事務局の方で、また、考えさせていただければと思っております。

4 ページの趣旨、期間および体系図については、第2回会議の中でも、変更意見等は無かったと思いますので、ご覧のとおりとしております。なお、次ページ以降、基本方針部分で変更になっている部分がございますので、それに従って図の方も変更しております。この図については、今後も基本方針や基本目標の変更に合わせて随時修正をしていくこととなります。

続きまして 5 ページの 4 基本方針の修正についてですが、前回会議の中で話に出ていたとおり、育成方針と実践方針に分けて記載を行いました。

育成方針については「心を磨き、可能性を引き出す教育」としております。心の教育については、道徳教育的にとらえられる可能性があるとのことから、このような表現にさせていただいております。

また、実践方針については「ふるさと彦根に愛着と誇りを持ち、次代を担う心豊かでたくましい人づくり」として記載しております。

囲みの中には、補足として「彦根の郷土への愛着と誇りを持ち、自尊感情を育て、好奇心やチャレンジ精神を育む教育を行います。」と記載し、全体として彦根市はこのような教育をしていくといった事が分かる内容としております。

一度、ここまでの部分で、委員の皆様にご意見をいただければと思っています。よろしく願いいたします。

○企画課長

事務局の方から、表紙から 5 ページの中段上の部分まで説明させていただきました。この部分についてご意見頂きたくよろしくお願いいたします。

○小松委員

まずこの基本方針のところですが、育成方針或いは実践方針という中身はこれでいいですが、その下の補足が必要かどうかということで、位置付けが中途半端な感じがしました。というのは、「彦根の郷土への愛着と誇りを持ち」というのは方針と同じ表現ですね。これをもし言わないといけないのであれば、別に枠組みの外に書かなくてもいいし、枠組みの中に入れてもう少し表現を変えるか、補足の部分をなくしてしまう方がすっきりとした感があると思います。読んだときに下の補足部分に少し違和感がありました。

○本田職務代理者

最初に表紙のことについて述べさせていただきます。

四つも考えていただきましたが、1 枚目は彦根市教育大綱における題字が小さいことと、佐和山から撮った写真はお城がもう少し真ん中にあるといいなと思っていたら、4 枚目にスカッとさわやかな彦根のシンボルが書かれている案が示されたので、どれも良いのですが、自分の好みですが特に 4 枚目がいいと思いました。

それと、今ほど小松委員がおっしゃったこととも関係ありますが、「はじめに」のところでチャレンジのことが入っていますので、基本方針のところは確かにダブっているかなと思いました。枠組みの中の内容と、郷土への愛着、自尊感情や好奇心やチャレンジ精神というのは心豊かでたくましい人と重なると思いますので、小松委員のご意見でいいと思いました。

また、この部分でもう一つ、基本方針というのは育成方針と実践方針の二つに分けなくともいいと思います。方針というのは一つの目安ですので、「心を磨き可能性を引き出す、彦根にこだわった彦根教育」と書いて、そしてその副題のように「ふるさとに愛着と誇りを持ち、次代を担う心豊かでたくましい人づくり」というようにサブテーマや副題のようにした方がいいかなと思いました。

「彦根」を入れた方がいいというのは、やっぱり長々と、彦根のプライド等そういうことも強調する意味で「彦根教育」と入れた方がいいかなと思います。

それから副題の「ふるさと彦根に愛着と誇りを持ち」ですが、今、ルーツがいろいろな人がいますので、彦根に住んだら彦根をふるさとのように思う外国人もいるだろうし、他の土地から来られた方もいるだろうし、もうそれもすべてひっくるめて彦根に愛着を持ってほしいという意味を込めて、「ふるさとに愛着と誇りを持つ」とした方がいいかなと思いました。

○教育長

今、本田委員がおっしゃった基本方針に関わってですが、私も基本方針は彦根が目指す方向性であり大事なところになりますので、この中は育成方針、実践方針が書いてあるわけですが、育成方針、実践方針を分けて書かなくてもいいと思います。

それで「心を磨き、可能性を引き出す彦根教育」として、ここに彦根を入れるとすれば、副題として、ふるさとというのはいろんなルーツの外国籍の子どももおりますので「ふるさとに愛着と誇りを持ち」でいいと思います。

○永瀆委員

まず、せっかくの力作の表紙のことを言わせて頂きますと、バランスとしては私も資料4がいいかなと思いますが、資料3も捨てがたいと思います。この中で決定しないといけないということであれば、私は資料4がいいと思います。多少の修正が可能であれば、彦根のシンボルの一つであるひこにゃんをどこかの形で合成でもいいので雲の形で浮かばせる等の案はどうかと感じたところであります。

市長が「はじめに」で述べられて書いていただいている文章も、今の時代に合った内容として、適切と言ったら失礼ですが十分だと思います。修正の必要は全くないですし、思いが込められた文章だと思います。

それと、4ページに入りまして、前回言わなかったかもしれませんが、基本目標の5項目に分かれているところで、3項目の「次代を担う地域の子どもの地域で育てます」が、少し文章としてしつこいかなと思います。あえて二重で使っていることで地域を強調したいことは読み取れるのですが、最終的に出来上がった案を見ると、私個人としては例えば「次代を担う彦根の子どもの地域で育てます」等、そういう形で、地域だけの子を育てるということではないので、彦根全体の子どもの各地域の大人が何らかのいろいろな行事

で携わっていく、そういう意味でも「彦根」に変えてはどうかと思います。

5 ページに移りまして、基本方針ですが、教育長がまさに言われた通り、私もその基本方針と言うのであれば一言で一つの表現でされるのがいいかなと思います。あえてここでまた、育成方針と実践方針に分けることは、私がこういうものを見慣れてないという影響もあるのかもしれませんが、少し抵抗がありました。シンプルに変える方がいいかなと思います。

○小松委員

私も表紙については基本的にパッと見た時には資料 4 がいいと思います。少しインク代が多くかかるかなとは思いますが。

今思いついたことですが、資料 4 の下に「心を磨く教育」という文面を入れてはどうでしょうか。あまり表紙にたくさん入れてごちゃごちゃするのは嫌ですが、一言、この資料 4 の「教育大綱」の下に「心を磨く教育」という文字を入れることはいいと思います。表紙を見たら教育大綱の方針が表れているということも表紙の意味かなと思います。

○田附委員

私も小松委員さんや皆様がおっしゃったように、表紙については資料 4 がパッと見て目を引くのでいいと思いました。私も「心を磨く教育」を下に入れたらいいということは思っておりまして。

あと、市長の最初の「はじめに」のところで、真ん中辺りの「また、保育・教育環境を整備するとともに、家庭や地域においての子どもの見守りについても明記し、乳幼児期に自尊感情を育てる教育」と書いてありますが、「幼児期から」にした方がいいのではないかと思います。

○企画課長

ありがとうございます。

今ほど、ご意見いただきました表紙については資料 4 のものをベースにひこにゃんをどこかに入れるか等、また、「心を磨く教育」の部分についてもこれをベースにさせていただきたいと思います。

市長、何かございましたらお願いいたします。

○市長

ご挨拶遅れまして、今日はありがとうございます。

今おっしゃっていただいたところは、もうほぼ全面賛成でございますので、各委員のおっしゃっていただいた方向でお願いしたいと思います。

基本方針のところで、その下の補足がなくなる中で、この基本方針に入れなくていいのですが、どうしても「好奇心」という言葉を私はどこかで入れて欲しいと思います、「チャレ

ンジ」は入っていますが「好奇心」がなくなるので、どこか裏表紙にでも書いてもらおうかとも思いますが、少し考えさせてもらいます。そこだけは、どうしても自分的にはこういう教育大綱で使う言葉ではありませんが、やはりワクワクドキドキで子どもたちを育てたいという雰囲気を持っている中で、向上心や好奇心という言葉は一つの大事なキーワードなので、何らかの形でどこかに入れていただければと思います。基本方針の中は今おっしゃっていただいた通りで結構です。どこかでそのキーワードが欲しいなと思ったぐらいです。勝手を申してすみません。

あと表紙についても、おっしゃっていただいた通り、「彦根市教育大綱」の後に「～」をつけて「～心を磨く教育～」のような感じでもいいのかなとも思いますし、ひこにゃんも是非入れていただけるとと思いますので、よろしくお願いします。

○本田職務代理者

終わってからですみませんが、「はじめに」のところに市長さんの顔写真は入れられないでしょうか。

○市長

なくていいと思います。思いとしてはありますけど、自分自身がずっと居続けるかどうかも含めてですが、それはなくていいと思いますし、反発されそうな気がします。

○本田職務代理者

でも、これはホームページに載るのですね。そうでしたら、やっぱり彦根市の市長の顔がある方がいいと思います。

○市長

もしそういうご意見いただけるのであれば大変恐縮ですけど、スペース的に余裕があるようなら載せていただきたいと思います。

また、24日頃に子ども庁の話が出ていて、まだ23年からのようで、まだまだ流動的ですが、教育大綱が4年ですので、その間にまた子ども庁ができたりする変更が出てくると思われます。いずれにせよ、この現時点での集大成ということで作成できればと思いますし、まだまだ時代はどんどん変わってくるのかなと思います。ですから、それに完全に対応することはできないと思いますが、大詰めで、今回を含めて4回、当初から今までいろいろな貴重なご意見いただいて進んだのと、改めて読み返し、いいなと思っております。いずれにしても、そういう意味でも、自分の写真があったとて、もっと先に時代が進むのかなと勝手に思いましたので、ただ彦根市長名で「和田裕行」の名前が入っていますので、責任を持つという意味では写真の方も検討させていただきたいと思います。ありがとうございます。

○事務局

市長が今ほど「好奇心」という言葉を言われましたので、「心を磨き、好奇心と可能性を引き出す」と入れるのはどうでしょうか。いきなりで申し訳ありません。

○市長

私からで申し訳ありませんが、好奇心は引き出すものではないと思います。好奇心は持っている、もともとあるものを育てる感じなので、好奇心は引き出すものではないような気がします。可能性は引き出すものだと思いますが。ですから、少し難しいような気がします。すみません。

○教育長

大綱については、市長が定めるというものですので、市長の思いを基本方針の枠外に、この枠の中の目指す方向性を補うものとして、枠外に幾つか「はじめに」に書いてあることを取り出してまとめるというのも市民の皆さんにとってはわかりやすいかなと思います。

熱い思いというのを中に入れ込んでくるというところと、それからその目指す方向性がはっきりと市民の方にも見えるというところが大事だと思いますので、消すだけではなくて他のレイアウトも考えながら整理をするということも一つの方法かなと思います。

○事務局

ありがとうございます

基本方針の部分につきましては、方針という形でつけるのと、副題という形で下の部分の「ふるさとに愛着と誇りを持ち、次代を担う心豊かでたくましい人づくり」という部分で、ここはすっきりと締める形で、今おっしゃっていただきました市長の思いを表現するような形でまとめて修正等させていただきたいと思います。

他に皆様から何かございましたらお願いいたします。

○永瀆委員

私のない語彙力というか、ない文章力を絞って考えたのですが、事務局の方から「好奇心」と市長の思いを入れるとありましたが、それを入れるならば、勝手に未熟な文章かもしれませんが、一例として「好奇心を持ちながら、心を磨き、新たな可能性を引き出す教育」等、何らかの順番を変えてつくるというのもどうかと思います。

単に一個ぽんと単語を入れるだけではなくて、他にももっといい言葉があるかもしれませんが、一例です。却下していただいても結構です。

○企画課長

ありがとうございます。この部分につきましては、今おっしゃっていただきました方針の

中に「好奇心」という部分を入れ込んだ形で示すということも、市長と相談して決めさせていただきたいと思います。

それでは、一旦5ページの中段上の部分までのご意見をいただいたところで、次また進めさせていただきたいと思います。

○事務局

それでは5ページ5基本目標をご覧ください。

「(1) 子ども一人ひとりの力を伸ばし、「生きる力」を育みます」の部分について、○の2つ目は、「教育の研鑽に努めながら、「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った、授業改善を行うことで、教育の質の向上を図り、児童、生徒の学力向上を目指します。」としております。前回、課題解決型授業については「主体的・対話的で深い学び」といった表現をしているといった内容からの変更となっております。

また、○の6つ目として追加しているのが、ICTに関連するところで記載しております。これについては、数年後にはICTといった表現も使われていない事も考慮し、「情報通信技術の推進を通して、デジタル社会に対応できる子どもたちを育みます。」としております。

続きまして基本目標の「(2) の持続可能な社会を担う人づくりを進めます」については、○の2つ目に、グローバルな人材育成のため、英語教育を前回削除していましたが、これは英語教育をそのまま残させてもらいまして、それに新たに追加して「国際理解教育の推進に努めます。」という文言を追加させていただきました。

続きまして基本目標の「(3) 次代を担う地域の子どもの地域で守り育てます」について、先ほど永濱委員からもおっしゃっていただきましたこの文言については、「次代を担う彦根の子どもの地域で守り育てます」というのも、また検討していければと思っております。

その中の○の2つ目の修正として、2回目の会議の中で不登校についても言及していただきましたので、「いじめや不登校等」といった記載にしております。その上で「不登校」については「問題行動」ではないため、「諸課題」と改め記載しております。

続きまして、○の4つ目として、コミュニティ・スクールの記載については、必要との御意見から、「学校と地域住民が力を合わせて学校の運営に取り組むことが可能となる「地域とともにある学校」への転換を図り、社会総がかりで子どもたちの教育を推進します。」を追記しております。

以上、基本目標(1)から(3)までの修正部分の説明を終わります。よろしく申し上げます。

○企画課長

基本目標(1)から(3)までの説明させていただきました。これまで伺っていただきましたご意見を踏まえての修正ということですが、皆様のご意見等あれば、よろしくお願いいたします。

○小松委員

3点あります。

1点目は、基本目標の(1)の「生きる力を育みます」の部分で、この中で、私が第2回の会議で、「教職員の資質能力の向上」という一文を提案させていただきました。ここは○の4番目に「教職員の適正な配置により…」という文言がありますが、これからICTとかいろいろなことに対して先生のレベルをいかに上げるかということは大事になると思って提案させていただきましたが、表現等があまり適切ではないので今回入っていないのかなと思っていますが、私としては、教職員に対するレベルの問題を入れて欲しいなと思っておりしました。

2点目は、同じく基本目標の(1)ですが、情報通信技術の推進ということを通して、今言われているのは「society5.0」、これは文科省の言葉でも言われていますが、そこでは「超スマート社会」という言葉が使われています。ですからこの「society5.0」ということを言うのであれば、その「デジタル社会」よりも、「超スマート社会」が一般的な表現になっているという感じがしました。

3点目は、(3)の「子どもを地域で守り育てます」ということで、ここの文面には最後に「コミュニティ・スクール」という言葉がありません。

最初には市長の方針の中にコミュニティ・スクールという言葉があって、あえてこの言葉を変換してこういう表現にしているのは、コミュニティ・スクールという言葉自体が何年後かにはなくなる可能性もあるから、あえて使っていないのでしょうか。私が読んだ時はこのコミュニティ・スクールという言葉に変わったらわかりやすいなという感じを受けました。

以上3点が気になった点です。

○事務局

委員がおっしゃいました教職員の能力向上関係のところも、何とか入れ込もうと思いついて、実はこの○の2番目の「教育の研鑽に努めながら」というところにその辺の意味も込めさせてもらった次第ですが、少しわかりにくいところもあったかと思いついて、申し訳ございません。また表現等は考えていければと思っております。

それと、デジタル社会、society5.0の関係についても、「デジタル社会」ではなく「超スマート社会」の方がわかりやすいという意見かと思いつきますので、その辺もまた検討させていただければと思っております。

最後の(3)のコミュニティ・スクールに関しましても、ここではコミュニティ・スクールという言葉ではなく、もう少し広い意味で「地域とともにある学校」という形で表現をさせてもらいましたが、委員がおっしゃる通り、コミュニティ・スクールという言葉にさせてもらった方がすっきりわかりやすいということであれば、それも検討させてもらえればと思っております。

またご意見等いただければと思いますのでよろしくお願いします。

○本田職務代理者

コミュニティ・スクールは今年度拡大する方向だと思いますが、全部が一举にはならないので、学校評価委員会等、そういう別の形で、コミュニティ・スクールという名前でなくても、十分運営に関わるような方向でなっていると思うので、「コミュニティ・スクール等」や「運営にともにある学校」で、今は十分のような気がします、どうでしょうか。

もしコミュニティ・スクールという言葉を入れるのであれば、「コミュニティ・スクールの拡充を図り」等によって、今年全部ではありませんが、徐々に徐々にという意味もありますので、「図り」という言葉にする等、いかがでしょうか。

○教育長

今のところに関わってですが、コミュニティ・スクールについては、今は努力義務ということですが、もうこれからの学校は設置していくことが必要と考えています。

ですから、今、事務局の方の計画では、令和6年を目途にすべての小中学校等において学校運営協議会を設置するというので、いわゆるコミュニティ・スクールにするということと考えておりますので、ここは小松委員さんおっしゃったようにコミュニティ・スクールということを入れた方が、市民の皆様にとってはわかりやすいかと思います。

それから、今の(3)とは別のところですが、まず(1)のところで、一番下の○の「情報通信技術の推進」という表記になっていますが、ここは「情報通信技術の活用」の方がいいかと思います。技術を活用して、一人ひとりの子どもたちにとって最適な学びを提供していくというようなところもあるので活用の方がいいかなと思っています。

それから、次の(2)ですが、基本目標のところは、「持続可能な社会を担う人づくり」となっていますが、今の学習指導要領では「持続可能な社会を創る人づくり」、社会の創り手というふうに言われていますので、創造の創ですが、「担う」ではなくて創っていくという必要性が生じていますので、ここは創るという方がふさわしいかなと思います。

それから、(2)の一つ目の○のSDGsのところですが、「社会に開かれた学校づくりの推進を進め」になっていてダブっていますので「推進に努め」の方がいいかなと思います。

○市長

言葉の問題だけで、趣旨は全く変わらないのですが、(1)の最初の○の「保幼小の連携を図り」ですが、これもまた先ほどの子ども庁の方針等々に関わってきますが、表現として「切れ目のない」という言葉が使われる感じなので、もし問題がなければですが「保幼少を切れ目なく連携し」のような表現ができればと思います。別になくてもいいです。少し思っただけで、「切れ目のない連携をし」のような言い方の方がより今後の方針に適当かなと思います。

あと一つ、私は日本語が難しいなと思いますが、(3)の2番目の○で、「いじめや不登校等の諸課題」という言い方と諸問題という言い方はどちらがいいかなと思って、この「諸課

題への対策を進める」というのが若干軽いような気がして、私はいじめや不登校等を取り巻く環境については深刻な問題に考えているので、「諸課題に対応する」という言葉より、「諸問題に真摯に取り組む」の方が向き合っている表現になるかなとも思います。その前の「安全安心な居場所づくり」にも関わってくるので、「諸課題に対策を進める」というのは少し重みがないような気がするので、「問題行動」という表現を使うのは駄目だと思いますが「諸問題」という言い方は別にいいかなと思いました。より我々がしっかりとこの問題を認識して取り組むという姿勢を見せたいなと思います。しかし、受け取り側として「不登校」が「問題」となってしまうとダメなので記載については慎重に行う必要があると思っています。

○企画課長

ここで、休憩を挟ませていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

休憩

○企画課長

それでは、再開をさせていただきたいと思います。

それと、休憩を挟ましていただきまして6ページまで議論いただきましたが、休憩の時間等で振り返っていただいてその中でまたご意見等があれば、それもよろしくお願いいたします。

○本田職務代理者

休憩の時間に気が付いたことをお話しします。

(2)の「SDGsの達成に向けた社会に開かれた学校づくりの推進を進め」の次のところで、「彦根の先覚に学び彦根で育ったというアイデンティティを育みます」のところを、この「持続可能な社会」の項目ではなくて、(5)の「歴史と伝統を生かし…」の方の一番下の○に「市民の郷土愛を育むため、彦根の先覚に学び…」と入れる方がふさわしい気がしました。

SDGsの中にも環境学習や郷土学習等、そういうものはもちろんありますが、どちらかというと、世界全体で進めている目標でもありますので、できれば(5)に入れる方がふさわしいのではないかと思います。

○市長

(2)のこれ全体を(5)にというご意見ですか。SDGsの一部を。

○本田職務代理者

「彦根の先覚に学び」という言葉が、どちらかというと彦根の歴史等に重きを置いている

内容でもありますので、(5)の「歴史と伝統を生かし…」の項目の下の方に付足すか、一番下の○の「市民の郷土愛を育むため、彦根の先覚に学び、彦根に残る…」と入れる方がいいような気がします。

○小松委員

別件ですが、先ほど基本目標の(1)の最後に「情報通信技術の活用を通じて、デジタル社会に…」というところを、私は「超スマート社会」と言ったのですが、「超スマート社会」という言葉が一般的にわかりにくいのではないかというご意見が休憩時間にありました。

超スマート社会は society5.0 とペアになる言葉になっています。これは文科省の方針にも出ていまして、この情報通信技術云々ということが society5.0 の中身、society5.0 というのはAIの進化等そういうところまで意味しているのですが、そうではなしに、もう少し日常で使うことの活用ということであれば、私は「デジタル社会」の方がわかりやすいかなとも考えました。

いろいろ彦根市役所の組織でもデジタル等、これは部長から言われたのですが、DX等のデジタルという言葉がより我々に染み付いているので、こういう言葉の方がいいのではないかというご意見がありましたので、私も同意ですので、「デジタル社会」の方がわかりやすいのであれば、私は今のこの表現でもいいかなと思いました。先ほどの発言は、ちょっと一部修正したいと思います。

○永瀨委員

休憩時間に市長と話していましたが、(3)の「次代を担う地域の子ども」の2番目の○の「不登校等の諸問題」というのは、重要なものとしてという前提で、変えてみてはどうかという意見でしたが、その場で考えてすぐに意見が言えませんでした。これが不登校自体の問題と捉えると不登校の子どもが傷つく可能性があるとは思いますが、この点はいじめ対策課の担当課長から一般的にどういう表現がいいのか、不登校も含めて、問題というふうにとっていいのか等の現場の意見を聞いてみたいと思います。

○学校支援・人権いじめ対策課長

いじめとか暴力行為等の学校で起こること自体は問題行動ですが、不登校の子どもたちにとって学校に行けないということは、そういう現象は子どもたちが悪いわけではありませんので、問題行動という扱いはしていません。

ですから、そういう不登校の子どもたちに対する抱えている課題という扱いで、「諸課題」が一番適切かと考えております。

○市長

賛成します。我々がこれに真摯に向き合うということを言いたかっただけですので、今の不登校に関しては「課題」という表現の方が適切だと思います。ありがとうございます。

○事務局

一点、休憩時間中に話にあったところで、基本目標(1)の○の二つ目ですが、小松委員からも言っていただきました教職員の能力の関係ですが、教育の研鑽という表現では、なかなかわかりにくいということと、教育の研鑽という言葉自体がどうかというご意見等々もありました。今事務局の方では、「教職員の資質・能力の育成に努め、主体的対話的で深い学びの視点に立った」ということで、その後の句読点も不要かと思いますので、句読点も取った上で修正できたらと考えております。よろしくお願いいたします。

○小松委員

ありがとうございます。今の表現でいいと、私は判断します。

○企画課長

他はどうでしょうか。

一旦、次の 7 ページに進めさせていただいてよろしいでしょうか。また最終、何かあれば、またまとめて最後にご意見等をいただきたいと思います。

では、次の部分から説明させていただきます。

○事務局

それでは続きまして、7 ページ 5 基本目標 (4) について説明いたします。

「(4) 市民一人ひとりが生きがいをもって、心豊かに学び続けられるまちをつくります」について、○の 2 つ目は、第 2 回の会議でありました、スポーツの振興が目的となっていると指摘を頂きましたので、「スポーツを通じた体力の向上や健康増進を図ります。」に変更しております。

次に、○の 5 つ目として公民館の記載を追記しております。内容としましては、「公民館と市民がつながる活動を積極的に実施するなど、地域に根ざした生涯学習の拠点施設として、公民館活動の充実と活性化に努めます。」としております。

続きまして、基本目標 (5) に移ります

「(5) 歴史と伝統を生かし、文化の香り高いまちをつくります」について、○の 1 つ目には「市内に残る指定・登録文化財」の部分で、「城下町・彦根に残る指定・登録文化財」と変更をしております。

○の 3 つ目としては、第 2 回の会議の中で話に出ていました、歴史や文化の香り高いまちにするために、市民や子どもたちへのアプローチの部分の記載も必要との意見を頂きま

したので、「市民の郷土愛を育むため、彦根に残る文化や芸術、文化財に接する機会の提供に努めます。」と追記しております。

先ほど委員の方からもここに(2)のSDGsの「先覚に学び」という部分も入れてはどうかというご意見もいただきましたので、またそれも踏まえて、ご議論いただければと思います。よろしくお願いいたします。

○永瀆委員

一つ、(4)の最後の○の新しい文言の「公民館と市民がつながる活動」も、「積極的に実施する」もわかりますが、市民同士がつながることが目的であって、「公民館とつながる」というのは言葉として違和感があります。その方法として公民館の活動ということであって、私はそこが気になりました。

○企画課長

皆様、他に何かご意見ございますでしょうか。教育長、ございませんか。

意見なし

○市長

今の永瀆委員のご指摘は御最もですので、「市民がつながる公民館活動を積極的に実施するなど、地域に根ざした生涯学習の拠点施設として、公民館の活性化に努めます。」のような感じでいいのかなと思います。

○企画課長

ありがとうございます。

今の(4)・(5)の部分でございますが、新しく追加した部分等で、今いただきました公民館の市民との表現は、市長がおっしゃっていただきました形でもう少し適切な表現に見直させていただきたいと思います。

その他、皆様から何かご意見ありますでしょうか。なければ全体を通してということでも結構ですのでご意見をいただければと思います。よろしくお願いいたします。

○市長

これはまた議論をさせてもらいたいのですが、大変貴重な意見をいただいたて恐縮ですが、「先覚に学び」が(2)にもあっていいかなと正直思うところです。

SDGsの考え方で、今後彦根も世界遺産を目指していくということでそういうものと一緒に、歴史も学んで、アイデンティティを育んでいきたいという郷土愛の部分があるのでここから「先覚に学び」がなくなると、SDGsの文章として内容がなくなってしまうかなと思う

ので、それに代わるような言葉があれば入れていただきたいと思います。

同じ言葉が重複するので、やはりこの地域の歴史文化を学んだ上で、誇りを持ってというのがアイデンティティに繋がってくるかと思います。それこそが SDGs の持続可能な社会サステナビリティの考え方だと思いますので、何か違う表現で示して欲しいなと思います。

○本田職務代理者

重なる部分が多くあると思います。引っ掛かったのは、彦根で生まれ育った人たちだけが彦根に住んでいるわけではなくて、ここに住んだからには彦根を好きになるような気持ちを、住む人たちに誰でも「彦根はいいところだな」と言って入ってくる人が多いこと思っているので、「彦根で育った」のところが少し限定的になっている気がしました。

もちろん世界遺産登録のこともダブって考えられますが、「先覚に学ぶ」というのは歴史と伝統、そのことが彦根城をまちのシンボルとしてこよなく愛するという気持ちもできると思うので、とても重なる部分があります。

今市長さんのおっしゃったように、どんなふうにそれを表現したらいいのかを、もう少し考えてみます。

○小松委員

小さな問題ですが、資料 4 で、表紙には日付があった方がいいと思います。資料 2 には彦根市の上に「令和 4 年 3 月」と日付があって、後の資料には日付が全部入っていませんが、これは日付があった方がいいと感じております。

○事務局

ありがとうございます。日付を入れるように、レイアウト等が背景とかぶってしまうところもありますので、その辺を事務局でまた検討して、入れる方向で考えていければと思います。

○企画課長

3 ページ目の「はじめに」の中段ぐらいですが、「進めていくこととして、基本方針の育成方針に明記しております。また」という部分ですが、この基本方針の部分が育成方針と実践方針に分けるという形がもう一本ですっきりとした表現にということでしたので、この部分は「育成方針」という記載は省かせていただきます。

○市長

すみません、今更なのですが、「はじめに」の文章で「新型コロナ感ウイルス感染症の拡大等」があって、今までいろいろ議論している中で、果たして 4 年後にふさわしい言葉なのかと思いますので、「大きな新型疾病」ではないですが、先生の方が詳しいと思いますが、こ

れもゆくゆくは収束し克服するとの前提のもと、これが 4 年間残る表現として冒頭でいいのかと思いますので、未知の病氣的なものの表現で何かないでしょうか。

○永瀆委員

私はこれでいいと思います。ここに書かれた 3 月という日付でのこの時点での状況、この状況からということで、それを言ったらもう何も書けなくなるわけで、この時点ではこういう時代だったということも含めて、市民の方が後で見るということもありますよね。基本、この表現で悪くはないと思います。

○市長

ありがとうございます、現行のままで行きたいと思います。

○永瀆委員

意見が滞っているようですので、先走っていたら申し訳ありませんが、用語集ですが、ここで出てくる言葉というのは、「生きる力」等、教育関連で仕事をされている方でないと、一般の方にはなかなかわかりづらいのでもちろん必要だと思いますが、コミュニティ・スクールというのも、知っておられる方は知っておられますが、基本方針や市長の言葉等、あとは、先ほど言っていました(3)の世代のコミュニティ・スクールを入れるかどうかというところで、「学校と地域住民が力を合わせて学校の運営に取り組むことが可能となる…」が説明として必要十分であればいいのですが、学校教育課として、もし何かこれが不十分でもう少し追加する説明が必要であれば、用語集に加えることが必要かなと思いました。

○生涯学習課主幹

今、言っていただきましたようにコミュニティ・スクールという言葉は説明が必要だと思いますので、用語集の中に付け加えていただければと思います。

コミュニティ・スクールについては、今おっしゃってくださった「学校と地域住民が力を合わせて学校の運営に取り組むことが可能となる『地域とともにある学校』への転換を図る有効なツール」というような説明もあります。用語解説には必要だと思いますので、文言を考えさせていただきたいと思います。

○企画課長

一番最後のページの用語集でございますけれども、事務局からの説明という部分ではそこまでさせていただいていませんが、今おっしゃっていただきましたように、入れた方がいい、この用語は説明が必要だという部分がございましたら、ご意見等をお願いできたらと思います。よろしくお願いいたします。

○教育長

用語集のところですが、社会に開かれた学校づくりというところで、イメージできるかもしれないませんが、その意味は追加した方がいいように思います。

○企画課長

皆様、他にご意見等いかがでしょうか。

意見なし

○企画課長

それでは、一旦、本日ご提示させていただきました教育大綱の案につきましては、今日いただきましたご意見や具体的な修正等の方向性も示していただいておりますので、そういったことを踏まえまして、最終的に教育大綱の改訂版ということで策定に向けて事務局で進めさせていただきたいと思います。

次回の会議の予定ですが、次回の予定としましてもう一度第 5 回目の総合教育会議を年明けの 1 月ごろに開催する予定をしていますが、本日具体的に修正等の箇所等も方向性もいただきましたので、そういったことも踏まえて、1 月にもう一度開催させていただいた方がいいのか、事務局で修正したものを最終的に書面的なものでご確認いただくということで、お忙しい方ばかりですのでまた集まっていただくことが難しいようでしたら書面の形でさせていただいた方が良いのかご意見いただければと思います。ただ、総合教育会議として取り扱いたい議題等がありましたら、開催させていただくということ可能ですので、そういったことにつきましても、ご意見等いただきたいと思います。

○小松委員

私はかなり詰めたところまでできましたので、書面でいいかと思います。

もう一つ何か先ほど言われたようにテーマがあれば、それと並行してというのがありますが、これ単体での議論はある程度出尽くしたのではないかという感じは受けています。

○本田職務代理者

もう後は市長と事務局で調整いただければと思います。よろしくお願いいたします。

○企画課長

今ほど、意見がもうそれなりに煮詰めていただいたという形でということですので、事務局で一旦この後の修正をさせていただいて、最終出来上がったものをご確認いただくということで、またご確認の機会を作らせていただくという形でよろしいでしょうか。

異論なし

○企画課長

ありがとうございます。いろいろ計4回にわたりまして、教育大綱の案についてご審議いただきありがとうございます。本当に貴重なご意見等いただきました。これを踏まえまして、最終的な案を作らせていただきます。確認の際には、またよろしくお願いいたします。

先ほどの意見いただいておりましたアイデンティティの部分や最終的な用語集の説明の部分につきましては、また事務局で適正に対応させていただきたいと思います。

皆様、他に何かご意見ありましたら、よろしくお願いいたします。

意見なし

○企画課長

それでしたら、本日はいろんなご意見ご議論をいただきましてありがとうございました。

最後に市長から何か本日を踏まえましてコメントをいただけたらと思います。よろしくお願いいたします。

○市長

第4回目もありがとうございました。今日いただいたご意見を必ず反映して今度見ていただいて納得いただけるような仕上がりになろうかと思います。

本当に前にあった教育大綱を見て、果たして本当に皆様の思いというものをここから変えていけるのかと思っていましたが、本当に総合教育会議を重ね、皆様に本当に貴重な意見、わかりやすいそして勉強になるお言葉等いただいて、いいものができ上がったなとしみじみ思っています。これをしっかりと我々も、基本方針として今後いろんな教育施策を進めていきたいと思っています。これに関連するものが出てくると思います。教育に限らず、当然保育の分野になると福祉も絡んでくるという分野ではございますので、この教育大綱というのを根本にした子育て施策等に取り組んで、何かずれることはあってもこれに立ち返るように心がけて、今後の市政の教育の行政を進めていきたいと考えております。しっかりとこれをまた皆様にチェックしていただいて、「ここからずれているのではないか」というようなご指摘もいただければと思いますので、また引き続き教育委員の皆様のご指導を賜りますようお願いしたいと思っています。

今日はありがとうございました。

○企画課長

市長、ありがとうございました。

それではこれで本日の会議を終了させていただきます。

皆様、どうもありがとうございました。

終了